

2018前期「福島の災害復興に学ぶ」第9回（開沼4回目）

○指定文献を読み、クイズを3問以上作って下さい

Q,福島ではどんな雇用ニーズが膨らんでいるか？3つ答えよ

A,保安や建設、介護

Q,福島の「宿泊旅行者数」は震災後どのくらい増えたか？

A,4割ほど

Q,震災関連死1793人のうち、66歳以上の割合はどれくらい？

A,9割"

"Q,福島の妊娠100件当たりの流産数は、震災前の10.1件に対し震災後は[ ]件である。

A、9.6~11

Q、一般的に出産後の女性がうつ傾向を訴えるのが10%程度なのに対し、福島では2011年度[ ]%の女性がうつ傾向を訴えた。

A、27%

Q、初婚年齢が1番遅い東京都では夫32.2歳、妻30.4歳なのに対し、1番早い福島では夫[ ]歳、妻[ ]歳である。

A、夫29.8 妻28.2"

"1.県内企業の倒産状況について全体の倒産件数は2012年から2013年にかけてどれくらい減ったのか。A.5件

2.震災後(2013年)の福島、全国の離婚率はそれぞれ何倍か？ A.福島→1.67倍、全国1.84倍

3.福島の肥満傾向児の割合で、2012年と2013年を比べて最も増えているのは何歳で何ポイントか。A.13歳で3.65ポイント"

"Q.避難指示解除後、福島の住民はどのような選択肢を持つべきか。3つ答えよ。

(帰還、移住、待機)

Q.震災関連死とは？

(避難生活での体調悪化や間接的な原因による死)"

○指定文献を読み、コメントを書いてください（500字以上）

"今回の章を読んで一番印象に残ったことは、福島に対しての「ありがた迷惑」と「善意」である。人々があつた迷惑な行動になってしまう理由として、メディアによる報道ではないかと思った。報道で福島は汚染されている、避難生活で苦しんでいる、といった偏った報道によって、「かわいそう」という感情になり、人々の善意があつた迷惑に繋がってしまうのではないかと思う。むしろ「かわいそう」と思うこと自体が迷惑かもしれない。福島県民は本当に「かわいそう」と思っただろうか。

また、福島の復興募金を震災後に多々目にするようになった。その中でも、個人が行っている募金は本当に信用していいのだろうかと思っていた。募金を行う人も、募金をする人も

「善意」からの行動であるが、そのことを利用して、資金集めをしている人が少なからずいるような気がする。募金箱やその背後には、震災直後の写真や、福島県民の困っている写真が載せられていた。それは悪く言えば、福島県を利用していることにもなる。そうした「善意」な感情を利用した「悪意」な行動が目立った。

そして、福島のためにできることについては、現地に行ってボランティアぐらいだ、と思っていたが、もっと身近にできることがあった。福島の食材を買うことだ。それと同時に、私は震災前も震災後も福島のお米を使っていることに今さらだが気づかされた。これが「ご自身の日常の中で」関わっているものであり、福島を応援できる手段は、意外と簡単で身近なものであると気づかされた。"

" 福島の有効求人倍率が都道府県で1位と聞き始めは福島には多くの企業があり、求人募集も多いんだなと思ったが、それと同時に大変な求人不足や女性の雇用減少が起こっているということがわかった。女性の雇用が減少していると、子供のいる家庭は共働きよりも収入が少なくなり、経済的に厳しく子供の虐待にも繋がっていくのだと感じた。雇用も家庭の虐待の問題も繋がっているんだなと思った。またこの本を読まなければ全く知らなかった福島の子供たちの体力低下、肥満の問題。これだけ聞くとやっぱり子供は原発によって遊んだり走り回る場所がないのだと思ったが、それを異様に親が気にしすぎるという側面があることを知った。何が正しい知識でどれを信じていいのかわからない親たちは、もし自分の子供になにかあったらと思うと心配でやりすぎなくらい遊ぶ場所や食べ物を気にしてしまう。あと少し正しい知識があれば、子供にとっても親にとってもいい結果になるのに、そのあと一押しが足りない現状にあるのだと思った。

この本も読み、以前福島ってこうなんだろうなと思っていた福島とは全く違う福島を知れた。またこの本を読んで知ったことがあってもそれをどう発信するかによっては、福島の人にとっては迷惑になるということをお忘れしないようにしたい。"

福島の有効求人倍率が全国で1位なことが驚きました。東京や大阪、京都辺りだと思っていたからです。復興需要による福島の雇用市場の活性化は結果的に福島県全体を救うことになり、素晴らしいと思いました。また、福島への宿泊旅行者が3.11以降減ったのではなく増えたという事実も凄いことであると思います。原発問題があり、確かに風評被害が多かったですが、世間の全体が悪い噂を鵜呑みにしているわけではないことの表れであると思います。また、高齢者や女性、外国人労働者が活躍できるように工夫しているのもまた、とても良い点であると思います。3.11後であろうとなかろうと、労働力不足や高齢者、女性、外国人の就業促進という日本全体の社会的な問題に福島も直面している、ということは言い換えると福島が日本の問題の縮図である、とも言えると思います。原発をはじめとする差別的な問題、少し話はズレますが、日本は他国と比べて移民の受け入れにとっても厳しい国です。その人の背景や立場は様々ですが、それを受け入れる姿勢が日本には足りないと思いました。福島の原発問題に対する固定観念を無くすように、移民への固定観念を無くすことが大切だと思います。また家族、子どもの話についても震災前後で流産や中絶の割合が変わら

ないこと、離婚率は下がり婚姻率は上がっているということ、震災という非日常なことが起こってもそれが原因で不幸になるのは違う、という(確かに辛いことはたくさんあったと思いますが)福島の人たちの強さ、人間性の素晴らしさの表れなのだと思います。

"今回は、労働についてや家族についての話がメインでしたが、「以前からそこに住むお年寄りにとって、外部からの作業員は怖いと感じる」という内容に驚きました。私は、お年寄りは自身より年下の作業員に対して恐怖感のようなものは感じていないだろうと思っていたからです。確かに、田舎の町であったり島であったりすると、近所の人もしくは町・島全体で長い付き合いのある方々が多いように感じます。一方それに対し、そこで働く若者の感覚や、流行などについていけなく理解ができない部分も多いということもあり、納得がいきませんでした。そこで私は、一度地域の会などを設けて、作業員もそこで協力出来るような機会があれば良いだろうと考えました。しかし、そのような会に参加できるようなお年寄りも少なくなることに加え、今から人脈を広げようとするお年寄りがどれだけいるだろうかと思い直し、実現には至らないだろうと考えました。

行動範囲が限られているお年寄りに対して、作業員をはじめとする外部から来た人が親しみを持つことはできるのでしょうか？福島に対して、そっとしておくべき私たちは、もし作業員のように近くで彼らと接することがあった場合どのように行動したら良いのかと思いました。"